

事業所防災リーダーに向けて、防災知識や防災に関するお知らせ等を定期的に発信します。

問題

発災後、事業所で一時滞在するために
管理が必要なものは何でしょうか？

カッコ内に入るものを①～③から、選んでください。

スペース：滞在場所、（ ）：モノ：備蓄物資

①カネ：資金 ②マインド：気持ち ③ヒト：滞在者



各事業所では、帰宅困難者対策として、地震発生直後に、従業員などが一時滞在できるよう準備をしましょう。大きく分けて、スペース（滞在場所）、ヒト（滞在者）、モノ（備蓄物資）をどのように管理するかを検討し、明確にするとわかりやすいでしょう。

いつ、地震が起ころうと対応ができるように、滞在に必要な備蓄を揃えたり、事業所での具体的な部屋割りを考えたり、事業所の管理者とリーダーが連携して指揮をとれるようにルールを定め、従業員へ共有を行っておきましょう。



正解：③ヒト：滞在者

事業所で一時滞在できる準備

東京都帰宅困難者対策条例では、従業員の一斉帰宅抑制や一時滞在のための備蓄を事業者の努力義務としています。下記を参考に、一時滞在できる準備を行いましょう。

①滞在場所（スペース）をどう確保するか

- ・従業員・お客様別、男女別、機能別（更衣室、要配慮者用など）にスペースをどう使うか
- ・トイレの利用ルール（水道が止まった場合の処理の仕方、清掃分担など）
- ・寝具を一部アルミシートなどで用意する場合は、要配慮者をエアマット等へ優先的に案内し、健康な従業員が寝具をローテーションで使うようなルールを作ると良いでしょう

②滞在者（ヒト）をどう守るか

- ・滞人数を予想・把握する（名簿を作成してみましょう）
- ・3日間滞後の時差帰宅など、帰宅ルール作り
- ・帰宅する必要がある従業員がいないか確認する（要介護家族の存在、就学児の有無など）
- ・顧客・取引先の方も保護できるように検討しましょう

③備蓄物資（モノ）をどう準備・管理するか

- ・3日分+10%（※）の備蓄、管理方法、分配ルール作り

（※）従業員以外に、発災時に事業所内にいたお客様や取引先の関係者などの一時的な保護もできるよう、従業員数の3日分の備蓄+10%を目安に準備しましょう。



やってみよう！

東京大学廣井研究室、SOMPOリスクマネジメントが共同で開発した
図上訓練キット『帰宅困難者支援施設運営ゲーム 事業所滞留版 KUG②』
4名程度でシミュレーションできます（所要時間：2時間程度）



一時滞在できる
準備をしましょう



詳しくはWebサイトをCHECK！ ➡
【東京大学大学院 都市情報・安全システム研究室 帰宅困難者対策】ページ
「事業所による帰宅困難者の受け入れ/滞留に関する研究」に記載



東京消防庁からのお知らせ

東京消防庁では、毎月、季節やそのときどきで問題になる防災にまつわる事柄をテーマに情報発信をしています。今月は「**熱中症に注意！**」をピックアップしています。是非ご覧ください！

東京消防庁HP ➡

